

合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガの発生状況と防除対策						
〔要約〕 <u>ミカンハモグリガの合成ピレスロイド剤抵抗性</u> はお互いに交差しており、これを有効に防除するためには発芽初期に <u>I GR 剤</u> を通常の7日間隔ではなく、3～5日間隔に縮めて2回散布し、それ以降7～10日間隔で散布する。						
長崎県果樹試験場病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
九病虫研会報 第39巻						

〔背景・ねらい〕

本年夏になってミカンハモグリガに対して合成ピレスロイド剤の効力低下が問題となったので、抵抗性かどうか確認するとともに、その有効な防除対策を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 合成ピレスロイド剤抵抗性のミカンハモグリガは8月になって、佐世保市以北を除く県内全域で発生し、これらはかんきつに登録のある全ての合成ピレスロイド剤に抵抗性でどの薬剤も防除効果はまったくなく、抵抗性は交差している。
- ② 合成ピレスロイド剤抵抗性のミカンハモグリガを有効に防除するためには、ノーマルト乳剤2,000倍やデミリン水和剤2,000倍などのI GR 剤を夏芽の発生初期に散布間隔を通常の7日間隔ではなく、3～5日間隔に縮めて2回散布し、以後7～10日間隔で散布するとよい。

〔成果の活用面・留意点〕

一種類の合成ピレスロイド剤が効果がないと、他のどの合成ピレスロイド剤も効果がないので、薬剤の選択に注意し、他の系統の薬剤を使用する。

〔具体的データ〕

表1 ミカンハモグリガに対する合成ピレスロイド剤の防除効果

薬 剤 名	使用濃度	大 村 市		長 与 町	
		被害葉率	被害度	被害葉率	被害度
	倍	%		%	
ロビ- 乳 剤	2000	23.7	15.3	38.6	25.3
ミカントップ乳 剤	2000	22.9	9.1	-	-
アディオン乳 剤	2000	-	-	36.4	26.2
デミリン 水和剤	2000	5.1	4.0	-	-
ノ-モルト 乳 剤	2000	-	-	3.2	0.6
硫酸ニコチン	800	0.8	0.1	1.2	0.2
無 処 理		38.3	34.0	54.7	43.6

表2 ミカンハモグリガに対する合成ピレスロイド剤の防除効果

薬 剤 名	使用濃度	被害葉率	被害度
	倍	%	
ロビ- 乳 剤	2000	94.0	78.3
ミカントップ乳 剤	2000	93.0	67.1
スミライジン乳 剤	2000	95.9	79.1
アディオン乳 剤	2000	96.6	64.7
アグロスリン乳 剤	1000	92.7	68.5
アブラック 水和剤	2000	98.1	81.2
スカウト フロアブル	2000	92.9	71.9
バイオ7 M E	1000	88.2	64.1
サイハシ 水和剤	2000	85.7	47.8
テルスター 水和剤	2000	88.6	63.2
ハイスイドE W	2000	90.2	58.1
硫酸ニコチン	800	45.2	9.1
無 処 理		100.0	98.9

表3 ミカンハモグリガに対するIGR剤他の防除効果

薬 剤 名	散布回	被害度
	倍	
ノ-モルト 乳 剤	2000	3.6、8
"		7.7、7
デミリン 水和剤	2000	3.6、8
"		7.7、7
インセガ- 水和剤	1000	7.7、7
硫酸ニコチン	800	7.7、7
アトマイヤ-水和剤	2000	7.7、7
無 処 理		98.9

〔その他〕

研究課題名：果樹の特殊病害虫発生状況調査

予算 区分：県単

研究 期間：平成4年（平成4～5）

研究担当者：大久保宣雄

既発表論文等：合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガの発生と防除対策

九病虫研会報 第39巻；1993

残された問題点：他の系統の防除薬剤を選抜する必要がある。